

### 3章 あと施工アンカーの不具合の定義

本試験法（案）では、あと施工アンカーに生じると想定される不具合を次のように定義する。

(1) 鋼材長不足

設計ミス、鉄筋の干渉等によって所定の深さまで鋼材が埋め込まれていない状態。

(2) 斜め削孔

鉄筋の干渉等により削孔が斜めに実施され、斜行している孔に対して斜めにあと施工アンカーが埋め込まれている状態。

(3) 鋼材破断

水の侵入などによってあと施工アンカーが腐食し、あと施工アンカーが埋め込まれている部分であと施工アンカーが破断している状態。

(4) 鋼材腐食

水の侵入などによって埋め込まれている部分であと施工アンカーが腐食している状態。

(5) 充填不足

施工向きや施工不良によって、接着剤の未充填部がある状態。

(6) 硬化不良

接着剤の硬化不良により、所定の強度を有していない状態。

(7) 付着不良

清掃不足や空洞の発生によって、あと施工アンカーと孔壁が接着剤によって十分に密着していない状態。

(8) 削孔径大

設計ミスや削孔ドリルの選定ミスによって、削孔径が所定の大きさよりも大きい状態。

(9) 削孔長深

設計ミスや削孔深さの管理ミスによって、あと施工アンカー埋め込み長よりも削孔長が深い状態。

(10) 拡張不足

鉄筋の干渉や清掃不足により、金属スリーブの埋め込み深さが不足し、所定の拡張が満足されていない状態。

「道路橋等の点検効率化等への計測・非破壊検査技術の適用性検証に関する共同研究（Ⅱ）ーコンクリートあと施工アンカーボルトに対する非破壊検査の適用性に関する研究ー（国総研資料 第 884 号 2017 年）」（以下、あと施工アンカーに関する共同研究）では、あと施工アンカーにこれまでに発生した不具合内容と発生要因の例を整理している。本試験法（案）では、検査結果の判定をより明確にするために、あと施工アンカーに生じる不具合を定義した。